

2020年1月27日

## ももたろう基金～「平成30年7月豪雨災害支援基金」～

## 第12次(災害支援・復興)助成金申請書

## 【団体情報に関すること】

ふりがな	いっばんしゃだんほうじんおたがいさまびらぼ		
団体名称	一般社団法人お互いさま・まびラボ		
代表者職名	代表理事	ふりがな	たきざわ たつし
		代表者氏名	滝沢 達史
ふりがな	おかやまけんくらしきしまびちょうやた		
団体住所	〒710-1301 岡山県倉敷市真備町箭田1015番地11		
電話番号		FAX	同 左
設立年もしくは活動年数	法人設立：2019年5月15日 活動開始：2018年11月1日		
スタッフ数	有給スタッフ 5名・無報酬スタッフ 1名・ボランティア等 10名		
団体HP(あれば)	無し		
FBページ(あれば)	<a href="https://www.facebook.com/otagaisama.mabilabo/">https://www.facebook.com/otagaisama.mabilabo/</a>		
CANPAN登録(原則必須)	なし・ <input checked="" type="radio"/> (星 1つ) 【団体ID： 1224515757 】		

※申請に関する事務担当連絡先(団体と異なる場合・電話番号については携帯電話など出来る限り直接本人につながるもの)

担当者役職名(必須)	副代表理事	ふりがな	ただ しんじ
		担当者氏名	多田 伸志
郵送物送付先住所	〒710-1301 岡山県倉敷市真備町箭田1015番地11		
担当者電話番号(極力携帯番号)		担当者 e-Mail	

※本用紙に記載の個人情報は、本事業の実施にのみ使用します。

## (事務局記入欄)

事務局記入欄 受付日・受付者	事務局記入欄 CANPAN 登録	有 ・ なし (予定 月 日頃)
-------------------	---------------------	------------------

申請事業の内容

事業名 (プロジェクト名)	「お互いさまセンターまび」運営事業
事業概要 (事業内容を簡単に)	西日本豪雨災害で被災した倉敷市真備町で、被災された要援護状態(65歳以上の高齢者・障がい者、支援が必要な児童・ご家族等)の住民を中心に支援を行う「お互いさまセンターまび」の運営を行う。
活動(予定)期間	2020年 4月 1日 ~ 2021年 3月 31日
活動(予定)場所	倉敷市真備町を中心にした、みなし仮設住宅全域
受益者数	直接受益者(167名) 間接受益者(上記のご家族等 名)※いる場合
<p><b>事業の必要性(背景)と目指すゴール(目指す状況)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状や支援対象者の状況(支援対象者との現在の関係性についても必要に応じて記入)</li> <li>・事業を実施することで被災地や被災者がどのような状況になることを目指すのか</li> </ul>	

西日本豪雨災害から1年半が経ち、まちの復旧は解体された土地が増え、新たに小さな平屋が建ち始めました。小学校が再開されて子どもたちの姿も見えてまいりました。しかし、未だに4000名（発災当初は8000名を超えた）を超える被災者の方々が町外のみなし仮設住宅に暮らされており、町内にも被災したままの家屋の中で孤立したまま暮らされている要援護者もおられます。先日も町内の被災したままの家で暮らされていた单身の方が無くなりました。支援につながらない要援護者、支援の網にかかりづらい方々がまだまだ孤立した生活を余儀なくされています。

私たち「お互いさまセンターまび」は要援護者の「移動支援」をのべ2500件走りましたが、次第に被災者の方々のニーズが変わってきていると感じております。真備へ家を改修・新築して戻られた方々もおられる中で、遠方からの移動が必要な方々が利用を終えられていく傍ら、真備の自宅の戻り、まだご近所が戻れない中で孤立した高齢者等が、ゴミ出しや買い物の足がないなど、被災地での生活上の苦勞などが増えてまいりました。まだまだコミュニティーが再生されておらず、孤立と心のケアの課題が見えてまいりました。そして今だに「移動支援」の一番のニーズは病院への通院です。

スーパーなどの商業施設の再開により、被災されていない地域の方々と、被災後帰って来られた方々がそこで出会うのですが、お互いに何と声をかけあったらよいか苦悩し、買い物に出るのが怖くなった被災していない住民の方がおられたり、PTSDがあちこちで見受けられます。子育てをしながら暮らしの再建を踏ん張って来た若い母親の悲鳴も聞こえ始めました。そろそろ頑張ることができなくなり、この先への希望が見えない方々の課題が顕在化しております。

「お互いさまセンターまび」は、これらの被災者の変わりゆくニーズに対応すべく、柔軟に支援の広がりを目指さねばなりません。「移動支援」を行い、声かけや見守り、車中での聞き取りなどがこれまでの活動の中心でしたが、今後は「移動支援」に加えて個別に必要な「生活支援」と、心のケア、コミュニティー再生への支援等が必要と考えます。また、新たな生活再建をされ、真備町に戻られた方々の中で、障害を持つ子どもの施設までの送迎や、負担が多い若い母親が一息付けれるような、こどもの一時預かりなど、個別支援を含めて新たな支援を創出する必要があります。そして10年かけてまちの新たな復興（小さな声から始まるお互いさまダイバーシティ復興）に伴走するまちづくり会社としてあり、被災したまちが幸せで防災機能をしっかりを持つ安心安全のまちになるまで活動を継続します。

#### 事業の実施内容

・どのようなことをいつ（回数等）やるのか

「お互いさまセンターまび」の運営を継続して行います。事業としては、

- ① : 「移動支援」: 軽四 3 台で被災した要援護者を中心に、被災されていない要援護者へも支援対象を拡大していく  
日曜・祝日を除く毎日、9 時～17 時 従事者: パートスタッフ×5 名 利用料金: 25 円/キロ
- ② : 「生活支援」: 軽トラ 1 台で被災した要援護者を中心に、よろず請負仕事を行う  
マインド作業所（お互いさまセンターまびと同一建物）と協働し、100 円/15 分で請け負う
- ③ : 岡山県臨床心理士会から「お互いさまセンターまび」へ公認臨床心理士が 8 名派遣される（2020 年 4 月より）。  
被災後にうつ状態になられている方や、PTSD の症状が出ている方などを中心に心理相談支援を行うことと、寄り添い支援として、片付けやごみ出し、荷物の移動などの軽作業も行いながら孤立させない支援を行う。また、子育て世代の母親支援として、子どもの一時預かり支援なども検討中。上記支援をつなぐ役割、調整する役割を「お互いさまセンターまび」が担う。  
毎週日曜日、約 2~4 時間 場所は被災された要支援者宅や「お互いさまセンターまび」にて

#### 事業の実施体制

- ・事業実施にあたり、自団体の取り組みメンバーや連携先の団体など

(取り組みメンバー)

- ・パート勤務者（被災者を雇用）: 5 名
- ・「お互いさまセンターまび」事業担当理事（多田伸志）
- ・岡山県臨床心理士会からのボランティア派遣スタッフ（公認臨床心理士 8 名）

(連携先メンバー)

- ・真備支え合いセンター（倉敷市社会福祉協議会が運営）
- ・倉敷市見守り支援室、復興支援室、真備保健推進室
- ・NPO 法人 岡山マインド「こころ」
- ・岡山県臨床心理士会
- ・真備地区関係機関・事業所等連絡会（真備連絡会）
- ・「team 千の風」（大阪市立大学安全衛生管理室カウンセリングルーム）
- ・石塚 裕子（大阪大学大学院人間科学研究科 未来協創センター 特任講師）
- ・中村 陽二（岡山県建築士会副会長）
- ・

#### 事業実施後の展望

- ・助成期間後も活動を継続する場合はその内容や展望
- ・助成期間をもって事業終了の場合は、その後の支援対象者の状況



私たち法人の目的は西日本豪雨災害からの「お互いさま復興」であり、10年間かけて新しい「ダイバーシティー」に向けて人の復興とまちの復興を目指します。「お互いさまセンターまび」の活動は、被災当初からバラバラになった被災者が孤立せぬように「移動支援」から事業を開始しましたが、1年半が経過した今、被災者のニーズも少しずつ変わってきました。

まだ4000人も被災者が町外のみなし仮設住宅での暮らしを余儀なくされている現状では、「移動支援」のニーズを継続しながら、新たな「心の支援」や「記録紙の発刊」を行いながら、みなし仮設住宅で孤立する方々へのメッセージを届けることが大切です。

「移動支援」は、町内に戻られて自力生活ができればはじめられた方々への支援を縮小しながら、もっと必要な方々へのニーズの掘り起こし（中断者へのヒアリングなど）を行います。自力生活が可能な方々は福祉有償運送、コミュニティータクシー等への利用の変更を模索していきますが、制度の狭間にある方々、公の支援が届かない方々への支援はもちろんのこと、今後過疎化する辺縁部や、コミュニティーが再生されるまでの各種「移動支援」は息の長い継続性を必要とします。

「心の支援」は、来年度から開始する新たな事業で、岡山県臨床心理士会から公認臨床心理士8名が今春から「お互いさまセンターまび」へ週末、ボランティア派遣されます。各人が月に一度程度ですが、被災者の「心の支援」を目的に、多様な生活支援も行いながら寄り添う、息の長い活動を開始します。また、真備町出身・大阪在住の公認臨床心理士の大学の先生が設立した「team 千の風」の専門職の方々との協働も始まります。

「記録紙の発刊」も2段階を計画しています。第一段階は、今年の雨期までに真備で被災された方々を対象にした記録紙で「帰ってきてください、待ってます、困られたらここへ」をコンセプトに、20人ほどのまちの被災者の方々からの聴き取りをまとめ、「ダイバーシティー復興」を目指す真備連絡会の取り組みを紹介し、冊子の表に「お互いさまセンターまび」の電話番号を大きく記した物です。この冊子は2000部作成し、みなし仮設住宅へ暮らされる方々、中でも「助けて」を言えない方々の元へ届けることを一義にしたものです。

第二段階は、真備で私たちが経験した失敗や教訓をまとめ、全国の方々の学びにつながるような、分かりやすい、手に取りやすい、上手いデザイン性とレイアウトを施した冊子です。こちらは「コトノネ」という障害福祉の冊子を手掛ける「コトノネ生活編集部」とコラボして製作します。

これらの活動は「一般社団法人お互いさま・まびラボ」の事業として行っていきますが、「一般社団法人お互いさま・まびラボ」は、設立後3年目に公益法人化を目指し、法人内に真備復興に資する基金を持つことができる定款をすでに有しています。弁護士や教育委員会の方、建築士や監査役として公認会計士の参加もあり、多様な人材で構成されるまちづくり会社として、現在2年間の実績期間を積んでおります。また、独自の収益事業開始を準備するべく、現在、日本財団からの防災機能を持った収益事業拠点整備への助成を打診し、回答を待っている状況です。

このように助成期間後の事業継続体制を視野に入れて、活動しています。

## その他

・その他事業実施にあたり、特に必要なことやPR

「お互いさまセンターまび」の活動は、真備地区関係機関・事業所等連絡会（真備連絡会）に参加する町内22ほどの医療・福祉系事業所、行政、社協、ボランティア等の連合体が生まれました。各々が被災した大変な中でも互いに協働し、率先して要援護者の方々への支援を作り出しており、過去の日本の災害被災地では考えられない先駆的な実践を重ねています。

※この用紙に収まらない場合は、別紙企画書など添付ください。ただし、概要についてはこのページ1枚にまとめてください。

実施予算 ※価格の根拠が分かるものなど必要に応じて添付ください。

※収入と支出の合計をあわせてください。【他助成金で確定しているものも収入に入れてください】

1) 本事業の収入

費 目	金 額	備 考
ももたろう基金（助成申請額）	2,000,000	
自己資金	3,441,080	
橋本財団より助成金（予定）	1,500,000	
JR 西日本あんしん社会財団（予定）	700,000	
合 計	7,641,080	

2) 本事業の支出

費 目（必要な場合算出根拠）	金 額	備 考
通信運搬費（電話、インターネット、ケーブルテレビ等）	120,000	
消耗品費（文具、コピー機トナー代等）	200,000	
水光熱費	60,000	
人件費（時給 900 円×7 時間×20 日×12 か月×4）名	6,048,000	
車両リース代（軽四×3 台 日本カーシェアリング協会より） 16200 円×3 台×12 か月	583,200	
車両費（ガソリン代）	300,000	
保険料（軽四 3 台 任意保険料 109,960 円/1 台/年間）	329,880	
合 計	7,641,080	

■ 他助成金の申請状況（この事業において他助成金申請している場合は記入ください）

申 請 先	金 額	採択状況	備考
橋本財団	1,500,000	採択 ・ 未定	
JR 西日本あんしん社会財団	700,000	採択 ・ 未定	
		採択 ・ 未定	

■ 備考欄（その他特記事項があればご記入ください）

--